

令和3年度 第1回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和3年7月12日（月） 13時30分から15時13分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁3階 庁議室

【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員8名内7名出席）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

高瀬委員（和歌山県 那賀振興局長）

立元委員（株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長）

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

林委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

森委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

○事務局（企画部 企画経営課）（4名）

角企画部長、栗本企画部次長兼課長、今井、西川、増田

○市担当課（6名）

企画部 地域創生課：畑次長、高月班長、中副主査

農林商工部 観光振興課：松井次長、熊城班長、南條主任

○傍聴人（1名）

那賀振興局 企画産業課 船倉課長

【欠席委員】

濱畑委員（和歌山公共職業安定所 所長）

【会議の概要】

1. 開会（13：30）（司会：栗本次長）

2. 会長挨拶

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 仁藤会長から挨拶。

3. 委員等紹介

委員及び事務局・担当課職員の紹介

4. 議題

○議長（仁藤会長）

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録と写真の公開並びに音声録音の承諾。
委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

議題 i) 「令和 2 年度地方創生推進交付金の効果検証」についての内

「住いも甘いも紀の川市移住定住交流促進プロジェクト」について、効果検証シート等（資料①・①-1・①-2・①-3）をもとに事務局及び市担当課より説明。

【質疑】

委員：昨年度新型コロナウイルス感染症の影響であのようなことになったので、甘露寺前の事業は、年度途中で検討されたと思いますが、それはよかったですと思います。若い人が積極的に考えたと思いますが、評価してあげてほしい。国勢調査の速報で紀の川市の人口は減っているが、隣の岩出市は増えている。その差を市としてどういう理由かを考える必要がある。紀の川市の弱点を見つけ政策に生かすことを考えてもらいたい。農業は重要な産業であるが全体的に高齢化が進んでいる。新規参入者を集めるのは至上の命題である。報告はいちごを対象にしている。桃はすぐにはできないが、畑や木をもっているが高齢でできない人もいる。後継者を探していかないと桃も廃れていく。他の農作物についても対策を考えてもらいたい。

事務局：地域創生課は元々東京、渋谷へ行ってゲリラ的に想定していたがコロナでできなかった。鬼滅の刃の人気にあやかり、地元の方と協力して実施することができた。国勢調査では年間700人程度減少しています。長期総合計画では2026年で60,000人の人口目標を掲げているが、現在58,000人程度で下回ってきている。実際人口増加については、難しいところがあるが、何とかこの人口を減らさないように施策を打つ必要がある。

農業では新規参入者、後継者不足、高齢化率も高い、引き継いでいく人がいないことも問題。他の作物への施策も担当課と協議しながら農業所得の確保を進めたい。岩出市は隣であるが、開発が進んでいる。紀の川市は、地理的に農地が多く進まない。農地法の縛り、排水面で課題がある、全庁的に取り組む。

委員：この辺は、大阪圏に近いというメリットを生かすのが重要ではないか。テレワークと

言われているが、全てテレワークではなく、職場に週に一度や月に何度かは行くことがある。距離的にも通える。和歌山県は、教育、医療については充実している。人を呼び込むポテンシャルはある。そのへんも考えていただいて事業を考えていただけたら。

事務局：ふるさと納税であれば関東からもあるが、移住となれば南大阪を対象に考えていく必要があると考えている。

委員：空き家活用促進連携事業、この事業自体が、地元で空き家を持っている人がバンクに登録するまでが事業の一番の目的、供給する側と需要側とがマッチングするべき。受け手側の考えについて明記されていない。まだそこまでいっていないのか、せつかく80%、90%の人に評価してもらっているのに。

担当課：出口として空き家バンクの登録、サイトが去年はなかった。今年は現地調査等を行っており、今後空き家バンクとして公表予定です。

委員：80%が良かったと満足しているので、成果として示す必要がある。

担当課：来年度以降推進交付金事業ではないが成果として出ます。

委員：空き家は非常に難しい問題で、空き家になることが確実な準空き家、和歌山市でも1万数千件高齢者の一人暮らしと聞いている。人口が30何万人といるなかで、事前に空き家になるところへアプローチが必要。セミナー等を継続してもらいたい。

担当課：今後も空き家の所有者だけでなく、空き家を利活用したい人への支援や地域おこし協力隊で空き家を回って掘り起こしを進めている。

議題 i) 「令和2年度地方創生推進交付金の効果検証」についての内

「関空立国デスティネーション化推進事業」について、効果検証シート等(資料②・②-1)をもとに事務局・担当課より説明。

【質疑】

委員：今は県内のお客さんを相手にしているが、コロナ後は県外、海外もターゲットにする必要がある。2025年に大阪万博がある。その時に紀の川市として何ができるのか考えてほしい。おそらく関西としてお出迎えすると思いますので、関西広域連合として関西にこんないいところがあるとアピールしていく形になる。紀の川市としてアピールしていくことを今のうちから考えておく必要がある。外国人に向けてフルーツの収穫体験も一つかなと思うが、新しい取組も必要。外国人をターゲットとした政策。大阪府と大阪市は独自に考えると思うが、その他の自治体は一丸となり考える必要がある。

担当課：去年から今年にかけて、本来の仕事ができないという言い方はおかしいが、できる範囲の形になっているジレンマを抱えている。直接呼び込むまつりなどはできない。集

客の動向として、紀の川市全体の観光客が減ったが、ポイントポイントで減っていない部分もある。産直市場等今後も見込める。キャンプ場も今後期待できる。これがコロナ後の観光を考えていく上でのヒントだと考えている。これから広域での取り組みが大事だのご意見を頂いたので、この事業は、泉佐野市、和歌山市であるが、その他にも広域的に連携し進め、25年の万博に生かしていきたい。

事務局：万博に向けての話がでたが、万博はいろんな国が集まる。マーケットとしてもいいものになる。市においても何かできることがないかコンテンツ等を考えていきたい。

委員：関空立国の目的に関空から40分とあるが、市長が進めている連絡道ができれば、これまでの半分くらいで関空から来れる。以前は夢物語だったが、知事の発言等で急速に進んでいるのではないかと考えている。

事務局：市長もこの道については、公約に掲げている内容であり、自分が無理でも道筋をと考えている。県も重要な道路であると認識してもらっている。大阪府も府県間道路で重要であると認めており、実現化に向けて進めていっていると聞いている。

委員：県でも重要な位置づけをしている。今年の政府要望に挙げている。

委員：この連絡道路ができれば、課題を紀の川市だけでなく沿線沿いの市町村、奈良も含めて広域で解決できる。国の方でも進めてもらいたい。一日も早く実現されることを祈る。市長選でもこの問題にどうやって取り扱われるか注目したい。

会長：今日の会議で将来性についても話が出たので、検討してもらいたい。

議題 ii) 「令和3年度地方創生推進交付金の申請内容」について

「住いも甘いも紀の川市」移住・定住・交流促進プロジェクト、「関空立国 destinations 化推進事業」及び「紀の川市ローカル×クリエイター共創プロジェクト」について資料(資料③-1・③-2・③-3)に基づき事務局から説明。

【質疑】

委員：新規事業について加工製品の売上について99万円となっているが、事業費のわりに少ない。3年経過後も効果が期待できるとして設定しているのか。費用対効果をいうわけではないがどうなのか。

事務局：本日担当課が不在になるので詳細は分かりかねるが、関係人口はビジネススクールの講師2人、ビジネススクールへの参加事業者数は過去の実績から20人と設定しています。

担当課から後日聞き取り：6次産業化は今までも交付金事業としてではなくやってきたが、ハードルが高い事業、実際やってみても万人受けする商品ができるかわからない、また、

企業が実施する事業ではなく一農家が実施する事業であるため指標としては少し低く設定している。3年後は交付金が終わるがビジネススクール等を自走していく予定。

委員：後々は海外に向けてのアンビシャスな展開を期待している。

副会長：去年からコロナ禍で計画が変更、中止になり大変であったと思う。その中でも移住定住の目標30人が実績40人に増えているのはよいこと。人がいないと何も起こらない。この伸びた内訳を吟味していただいて次の計画につなげてもらいたいと思います。

議題 iii) その他

- ・その他の質疑、意見なし。

5. その他

なし

6. 閉会 (15 : 13)